



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	221	409	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	2	3	ヘルパンギーナ	14	19
咽頭結膜熱	11	19	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	65	73
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	40	68	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	346	528	流行性角結膜炎 (はやり目)	5	18
水痘	126	141	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	8	14	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	17	20	マイコプラズマ肺炎	2	1
突発性発しん	25	33	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- 水痘

- 感染性胃腸炎は、報告数 346 件(前週報告数 528 件)と減少。地区別では、山鹿、天草、宇城、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、1歳、2歳、10～14歳の42件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- インフルエンザは、報告数 221 件(前週報告数 409 件)と減少。地区別では、宇城、天草、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の67件を最多に、幅広い年齢層からの報告である。
- 水痘は、報告数 126 件(前週報告数 141 件)と減少。地区別では、宇城、人吉、熊本市に報告が多くみられる。年齢別では、2歳、3歳の28件を最多に、8歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	59	1	3	13	109	38		9	12			23		5				2
山鹿保健所	6			1	32	3			1			6	*	*				
菊池保健所	21	1	2	3	33	9	1		7			9						
阿蘇保健所	2			1	4	1		1					*	*				
御船保健所	9				9							1	*	*				
八代保健所	14		1	5	18	9		1	3		1	7						
水俣保健所	3					2	1						*	*				
人吉保健所	40		3	3	29	27			1		1	8	*	*				
有明保健所	23			7	43	9	1	3	1		3	2						
宇城保健所	19			3	29	27	1	1			1	5						
天草保健所	25		2	4	40	1	4	2			8	4						
計	221	2	11	40	346	126	8	17	25	0	14	65	0	5	0	0	2	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	221		5	7	3	7	6	10	17	15	14	18	67	14	8	13	5	6	2	2	2
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	2	2																			
咽頭結膜熱	11		2	3	1	1	1	2				1									
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	40				4	4	2	4	3	7	4	4	6		2						
感染性胃腸炎	346	2	21	42	42	41	23	22	15	23	20	15	42	5	33						
水痘	126	5	6	27	28	28	18	9	1	3	1										
手足口病	8			3	2				1	1	1										
伝染性紅斑	17			1		2	1	2	2	4	2	1	1		1						
突発性発しん	25		12	10	2	1															
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	14		4	2	2	1	2	2	1												
流行性耳下腺炎	65		1	5	10	6	10	12	11	5	2	1	2								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	5														1		1	2			1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	2			1											1						
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 感染性胃腸炎：山鹿
- 水痘：宇城・人吉

麻しん(はしか)



これから好発期をむかえる麻しん(はしか)は、平成23年は東京都、神奈川県を中心に報告が増えています。麻しんは、大変感染力の強いウイルスであり、麻しん患者1人から、免疫のない人12～18人に感染させることができると言われています(インフルエンザは2～3人)。また、肺炎、気管支炎、中耳炎、腸炎などの合併症や重い神経・精神の後遺症を残す可能性の高い脳炎を患うこともあります。麻しんの感染を予防するには、予防接種が効果的です。定期予防接種の対象者(第1期:1歳時、第2期:小学校入学前の1年間、第3期:中学1年生、第4期:高校3年生相当年齢の者)の方は、なるべく早く予防接種を受けるようにして下さい。定期予防接種の対象者以外の方で、一度も予防接種を受けておられず、麻しんにかかったことのない方は、是非早めに医療機関に御相談下さい。

